



神奈川東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2013-2014年度 R I 会長 ロン D. パートン

●クラブテーマ「心を見つめよう」●



第2590地区 ガバナー
市川 緋佐磨

- 会 長 伊 東 英 紀
- 会長エレクト 山 田 正 憲
- 副 会 長 江 森 国 一
- 副 会 長 横 山 範 夫
- 幹 事 山 本 芳 弘
- 副 幹 事 植 田 清 司
- 会 計 朝 日 達 夫
- 副 会 計 須 永 久 一
- S A A 矢 野 修 二
- 副 S A A 小 山 市 康
- 副 S A A 石 川 正 三
- クラブ会報 佐 藤 勝 彦



写真提供 小池将夫会員

事務局 ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555

例会日 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第 5 金曜日 6 : 00 PM)

例会場 ホテルキャメロットジャパン **創立記念日** 昭和 51 年 5 月 29 日

URL <http://www.kanagawahigashi.com/>

E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

2013-2014年度 第12週報 No. 1806 2013年(平成25年) 9月27日 第1806回例会記録 10月4日発行

司 会 植田 清司 副幹事

点 鐘 伊東 英紀 会長

斉 唱 「手に手つないで」

四つのテスト 伊澤 政宏 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 横溝 芳弘 様 (ゲストスピーカー)

誕生日祝

澁谷 高弘 会員 (9月22日)
田口健太郎 会員 (9月29日)
藤橋恒一郎 会員 (10月2日)



本日〈10月4日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「君が代」「奉仕の理想」
- ◆ 献 立 サーモンのムニエル
- ◆ 卓 話 「センターポールに日の丸を」
日本水泳連盟副競泳委員長 鈴木 陽二 様
(紹介者 加藤 仁昭 会員)

<< 本日の B G M >>

「What one man can do ～ひとりの人間に出来ること～」
作詞・作曲 ジョン・デンバー

会長報告

伊東 英紀 会長

・持ち回り臨時理事会報告

卓 話**「観世音、観自在の境地」**

日本生産性本部認定コンサルタント 横溝 芳弘 様

(紹介者 白鳥 厚夫 会員)

幹事報告

山本 芳弘 幹事

・本日、例会終了後に社会奉仕によるクラブフォーラムを開催致します。大勢の参加をお願い致します。

場所 ジュビリーⅢ

出席報告

長井 章 出席委員長

会員総数	53名	(35+18)名	
出席会員数	43名	(30+13)名	
出席率	89.58%		
ゲスト	1名	ビジター	0名
前回補正後	84.44%	前々回補正後	89.36%



「今日の話は、人生哲学だ。役立つ・参考になるとフィルターを通して聞け」

私が駆け出しのコンサルタントの頃、日本電装(現デンソー)の部長職研修を始める時、創業家の豊田偵吉朗副会長(当時専務、トヨタ初代社長のご子息)が、研修の冒頭、皆さんにお話しされた言葉です。社員達が、優秀を鼻にかければ、どんな話も通じない。それを恐れての言葉と思います。さすがにトヨタだと思いました。

私は、仕事を通して、多くの創業者や創業期を知る人達に出会い、教え頂けた幸運に感謝しております。リーダー達は、自分は強運であり、成功することが自分の運命であると確信し、周りの人達は、リーダーを男にしてやるのが、自分の役割とされている。そうした事例の中からエピソード的な話を交えてお話しさせて戴きます。

今日、ここにお集まりのロータリアンの皆さんは、行動力と自信と信念と執念と強運と観自在の境地にある方ばかりだと思います。そんな方に、どこまで参考になるか、失礼の段はお許し頂いて、お話しさせて戴きます。

1. 先ず、出来ない理由を排除しましょう。
出来ない理由は、時間がない、アイデアがない、やる気がないの3つ。それを、ケース・バイ・ケース、卵と鶏の関係、後で、と問題を曖昧にしたり、先送りしたり、他に理由を求めている。
2. 仕事の中の3-4割は、お客様の為にならない付加価値を産まない仕事が紛れ込んでいます。
子羊の歩いた道の寓話の様に、前任者からただ引き継いだ仕事、そこに思い込みがあったり、自分が心配だから、安心だから、念の為に自分を守る為の仕事に変えていませんか。問題の本質を捉えず、もぐら叩きの対策を繰り返していませんか。

スマイルボックス

石川 正三 副SAA

田口健太郎君 誕生日祝い、ありがとうございます。

澁谷高弘君 誕生日祝い、ありがとうございました。無事に68歳となりました。

伊東英紀君 横溝様、本日の卓話、よろしくお願ひします。

白鳥厚夫君 横溝さん、本日の卓話、よろしくお願ひ致します。皆様にとって、役立つことと思っていますので、よく拝聴願ひします。

飯田泰之君 先日は、直前会長・幹事会では大変お世話様でした。特に前々加藤会長・天野幹事にはお世話様でした。

西山 潔君 先日の直前会長・幹事慰労会、大変お世話になりました。加藤さん、天野さん、ありがとうございました。

山田富雄君 昨日の入会候補者 保坂さんの会社訪問、月山さん、梅崎さん、森永さん、赤堀さん、ご苦労様でした。

月山 勇君 昨日、新会員候補者 保坂さんの事務所訪問、赤堀さん、森永さん、同行ありがとうございました。

伊澤政宏君 久しぶりに出席致しました。朝日様、赤堀様、お世話になりました。

竹山 洋君 地区ゴルフ大会では、佐藤さん、赤堀さん、お世話になりました。

茂木知子さん ~写真館絶滅する~免許の更新の為、せめて年より若く見えるというような写真にしたいと思い、頭をセットし、きちんとメイクをして写真館に行きました。どこの街にも1軒はあった写真館、なんと大倉山では絶滅していました。仕方なく、駅構内にある無人の証明書の撮影機で撮影しました。

9月27日	11件	34,000円
本年度累計		552,500円

解決の最小手順と相手をして自発的に解決せしめる方法を明らかにして、時間を作りましょう。

3. 言い訳を言わせると、誰でもが、天才であることに気付かせよう。

あなた天才的なアイデアマンです。ネガティブ思考をポジティブ思考に変えましょう。アイデアは無限に出てきます。

4. やる気だけで、人生は変わります。

一年たって、私は未だ新人です、と言わせるな。やったことがないからと断るな。最初は初めて、二回目からはオーソリティになれる。Yes, I canで、引き受けよ。

5. 仕事のポイントを押さえよう。

- 1) 仕事のポイントは、簡単明瞭、難しく考えるな。

Ex. 人事部長の仕事は、社内に人事評価の納得性を広めること。

- 2) 残業するより早出で、仕事の効率上がる。

Ex. 事業部長の率先垂範で、好業績のきっかけとなった。

- 3) 1秒間に75cmの歩幅で二歩、標準スピードで歩こう。

Ex. 職場に入る時の三歩で、職場規律と能率・効率上がった。

6. 人生を変えた発見は、上司のアドバイス。自分を活かす行動が、人生を変えた発明へ。現在、世界80か国で採用。

7. 自慢ので出来る友人を持てば、彼らの努力で、自分も努力少なく成長出来る。

8. 視点を変えれば

- 1) 飛躍の基を作った女子短大の入試合格基準

- 2) ライバルが見限った土地を活かした大手物流会社

- 3) ただ同然の沈没船から造船の起業のチャンスを掴む

9. 情報発信力のあるお客様、キーマンを押さえれば、後はドミノ倒し。お客様が、営業部長を自称してくれて芋づる式受注につながった。お客様は誇り。

事業の問題は、すべて予約受注、先行受注力に集約される。

10. チャンスは、不況にあり。求めず、与えられる、を待つ

「共生、地元役に役立ち」をモットーに、200年の長寿命企業。

一言でいえば、本質を捉え、好循環に乗ることが大切。

【議事】

- ・環境問題で『意義ある業績賞』受賞

2000-2001年度、環境を考えるポスターを小学生から募集し、区役所等で展示を行い、R I から『意義ある業績賞』を受賞。

- ・スリランカ支援

OWOP協会の鈴木会長の卓話がきっかけとなり、スリランカへの井戸支援が始まり、13年間で70本（クラブ単独51本）を寄贈。クラブ創立25周年記念事業として、スリランカに幼稚園を主体とした複合施設を寄贈。

2001-2002年度、「スリランカに焦点を当てて」で、地区からガバナー特別賞を受賞。

- ・スリランカ支援の広がり

橘高校の女子生徒が、日本の絵本を英訳しスリランカに贈る活動を始め、クラブが協力する。

伊ヶ崎先生が中心となり、同志社女子大学、京都光華女子大学の活動に引き継がれ、区民まつりの募金活動にも参加。

フェリス女学院の中高生が絵本の翻訳に参加。

これらの活動は新聞等にも取り上げられる。



ロータリーニュース

動乱を生き抜いた高齢者を若者が支援

ウクライナで初のロータリークラブが設立されたのは、旧ソビエト連邦崩壊直後の1992年のことでした。20年後、若い人たちが中心となり、国内に24のロータリークラブを設立しました。

これらのロータリークラブの多くが、ウクライナが現在直面する課題に取り組んでいます。そのうちのひとつ、キエフ・マルチナショナル・ロータリークラブの会員は、お年寄りへの支援活動を行っています。このクラブはこれまで約3年間、首都キエフから40マイルほど離れたParemohaという村にある老人ホームを訪問しています。この村のお年寄りは、ドイツによる占領・撤退、ソビエトによる占領と独立への闘い、1990年代における市場経済への移行など、動乱の時代を生きてきました。

「私たち、次世代の若者が自由な国に暮らせるよう、できること

社会奉仕クラブフォーラム

テーマ「今までの実績を振り返って、
これからの活動につなげよう」

9月27日（金）例会終了後に社会奉仕による第一回クラブフォーラムが開催されました。

すべてをしてくれたのが、この世代の方々です」と話すのは、元クラブ会長のタラス・ミトカリクさんです。「私たちは、そんな高齢者の方々に喜びを運んであげたかったんです」

ローターアクトを通じて、年長者に恩返しを行う若者たち。ミトカリクさんは、「ウクライナの若者は、このような運動に惹かれています。なぜなら、こういう活動をすれば、その結果を見ることができるからです。誰かの承認を得たり、官僚的な手続きを踏む必要はありません。自ら出かけて行って、楽しみながらよいことができる。それがこの活動だと思います」

米国人夫妻がウガンダの村を支援

ウガンダのオドゥオロ村で、村人のニーズに耳を傾けているのは、米国のロータリアン、スティーブ・ウォレスさんと、妻のビッキーさんです。イチジクの木の下で村人が集まるこの「ミーティング」によって、村には、きれいな水、食糧、医療、若い村人を対象とした職業訓練が必要であることが分かりました。

ウォレスさん夫妻がオドゥオロ村で活動するきっかけとなったのは、2005年にポリオ予防接種活動でナイジェリアを訪れたことでした。カリフォルニア州レイクエルシノア・ロータリークラブ会員で、財団メジャードナーでもある夫妻は、それまで、海外へ旅行したことはほとんどありませんでしたが、このナイジェリアへの訪問が2人の人生を変えました。「ポリオに苦しむ人たちは、泥にまみれて地を這い、子どもたちは食べ物を探してゴミをあさっていた」と当時を振り返るウォレス夫妻。ナイジェリアから、太陽降り注ぐ南カリフォルニアの自宅に戻り、それから4日間をかけて、その後の人生の過ごし方を考え、計画を立てました。

第5330地区のバスタガバナーでもある夫のスティーブさんは、「これからの人生の過ごし方についてちょうど考えていた時でした。これからは、もっと人道奉仕を行いたいと考えていたんです」と話します。

2年後、地区の多年度プロジェクト委員会が夫妻に国際奉仕活動への参加を持ちかけてきました。しかしそれには1つだけ条件がありました。それは、海外から一度も支援を受けたことのない村を選ぶ、というものでした。

4カ国を訪れ、候補となる5つの村を視察した後で、夫妻はオドゥオロ村を訪れ、そこでのニーズが最も大きいことを知りました。村人たちは病気がちで、栄養も十分に取っておらず、昏睡状態の村人さえいました。「村人は1日中、頭をもたげながらその場に座っていました」とビッキーさん。村ではマラリアもまん延していました。村人は残飯を食べ、汚染された水を飲みながら何とか生活しており、一番近い水汲み場が、歩いて2マイルも離れた場所にしかないという状態でした。村には農機具もなく、家畜もいませんでした。10年以上前に起こった軍による襲撃から村は未だに立ち直っておらず、農業の知識があった村人はそのときに殺害されたか、村を去ってしまいました。ウォレス夫妻は村人が自分たちの村を、「忘れ去られた村」と呼んでいることを知ったのです。

村人の考え方と文化を尊重

「ビッキーと私は、村人に解決策を押し付けるのではなく、村人の考え方を尊重し、村の文化を守りつつ、プロジェクトを進めたい

と考えました」とスティーブさん。「最初の目標は、この村にきれいな水の供給システムを作ることでしたが、最終的な決定は私たちではなく、村の年長者が下さなければなりませんでした。そこで私は彼らに提案書を提出しました。内容は、村が10のおとし便所を掘るならば、私たちが新しい井戸のために、2つの掘削孔をつくるというものでした。年長者は半日の寄り合いを開き、私たちの提案を受け入れてくれました」

それから、オドゥオロ村の変革が始まりました。第5330地区の2007-08年度ガバナー、マーク・ホウィンソンさんの力を借り、ウォレス夫妻は村にロータリー地域社会共同隊を設立、ロータリアンに地元のニーズについて伝えました。

地区内のクラブは、このプロジェクトのために23,000ドルを集め、その一部は村人への農業研修にあてられました。その研修により村人は、農機具の使い方を学び、昨年は、40人が有機農業の研修を受けました。スティーブさんは、「最初に私たちが村を訪れた時は、農機具もなく、村人は木の棒などを使って、種をまくための畝間を作っていました」と話します。

このプロジェクトの全般を通じ、カンパラウエスト・ロータリークラブが大きな支援を提供しました。クラブ会員は、第5330地区と協力し、水と衛生プロジェクトのためのロータリー財団補助金を申請し、その一部では壊れた9つの掘削孔の修復と村人への職業研修（水タンクの作り方）が行われました。

ウォレス夫妻はこのプロジェクトが始まって以来、毎年オドゥオロ村を訪れています。2009年に、ホウィンソンさんと妻のバーバラさん、ロータリアンのグリー・ポーターさんと妻のパウラさんとともに訪れた際には、1,500名以上の村人が出迎えてくれ、歓迎パーティが開かれました。ある年長者はウォレス夫妻に、このような華々しい出来事がこの村で起こるとは思わなかったと話したそうです。この年長者は続いて、このプロジェクトの影響力を物語る言葉を残しました。「あなた方は食べるための魚をくれたのではなく、私たちに、釣り糸を与えてくれました。心から感謝します」



The Rotarian

次週《10月11日》の卓話予定

テーマ 「若さに挑戦 逆順入仙」

元学研ホールディングス 相談役 古岡 孝 様
(紹介者 白鳥 厚夫 会員)